

入選

おじちゃんからのプレゼント

奈良県 高田小学校 1年 小畑 茉奈美

私はその日も、いつものように夕方、ポストのなかみを取り出して、家に帰りました。夕食のあと、お父さんが、

「この荷物何だろう。」

と言って、お母さんが荷物をあけていたので、私もそばで見ていると、

「まなみちゃん、これみて。」

と私もお母さんもお父さんもびっくりしてしまいました。なぜなら、その荷物はなんと、おじちゃんからの入学祝いで、本が二さつと手紙が入っていたからです。

おじちゃんというのは、私のマンションで、前におそうじをしてくれていた人で、会うといつも声をかけてくれるので、私も「おじちゃん」とよんで、大好きでした。でも、こしがいたくなって、きゅうにやめてしまったので、会えなくなって、とてもさびしいなあと感じていました。そのおじちゃんからのとつぜんのプレゼントに、私のことをちゃんとおぼえてくれていたんだなあと、とてもびっくりして、うれしくてないてしまいました。

本のタイトルは、『エルマーのぼうけん』と『おおきなきがほしい』でした。どちらもまだよんだことのない本でした。そしておじちゃんからの手紙には、

『まなみちゃんへ

げんきにしていますか。しょうがっこう、にゅうがくおめでとうございます。おそくなりましたが、にゅうがくいわいに、ほんをえらびました。きにいってもらえるかわかりませんが、にんきがあるそうです。まなみちゃんのことだから、かんじもよめるとおもいますが、ひらがなにしました。げんきに、べんきょう、うんどうにがんばってくださいね。 そうじのおっちゃんより』

とかいてありました。私はおじちゃんが私のために本をいっしょうけんめいえらんでくれたんだとおもって、すごくうれしくて、この2さつの本をたからものにすることにしました。そして、いっぱいいっぱいよもうとおもいました。ずっとおじちゃんいあいたいとおもっていたので、それからすぐに、お母さんとおれいの手紙をかきました。

するとしばらくして、おじちゃんからお母さんにでんわがかかってきて、私のがっこうがえりにマンションの前でまっついてくれました。私はおじちゃんの声ではじめてきがついて、「あっ、おじちゃん。」と、びっくりしてうれしくて、とてもはずかしいなあとおもいました。本当は家に来てほしかったけど、おじちゃんはいつものやさしいおじちゃん、すこしはなしをしてかえってしまいました。でも、おじちゃんにあえてとてもうれしかったし、本のおれいも言うことができたのでとてもよかったなあとおもいました。

さいごに、エルマーの本は、ぜんぶで3さつあるとお父さんにきいたので、ぜんぶよみたいなあとおもいました。